学などの源流となった。大成殿は黒塗りで重厚壮麗だ。構内にある孔子像の世界一の高さに圧倒される。

次に向かったのは神田明神。天平2年創建の古社で元和2年現在地に移され江戸三大祭りの一つである。緑青色の大きな鳥居をくぐると、朱色が鮮やかな随神門と本殿・拝殿が目に飛び込んで来て圧巻だ。

参拝を済ませ、次の東京都水道歴史館に向かう。東京水道400年の歴史を江戸時代と明治時代以降に分けて実物展示や歴史資料、映像で紹介している。江戸上水の技術の高さ、世界有数のレベルに成長した東京水道の進化に感動。

続いて向かったのは小石川後楽園。寛永6年水戸藩主徳川頼房が築き2代光圀が完成させた回遊式築山泉水庭園である。神田上水の分流を引き入れ、山、川、湖など景観が巧みに表現されている。まさに大江戸・東京に残る深山幽谷の趣だ。

小石川後楽園

最後に昼食会場の神楽坂「桃仙郷」へ。散策で空腹の中、早速懇親会がスタート。「盛り込みの9品御膳」とお酒・ビールを堪能。皆さん話に花が咲き、大いに盛り上がり、15時40分に散会した。実に見所満載の楽しく有意義な探訪ツアーでした。

会員による自由投稿

「古川町」考

昭20年卒　髙橋　昭典

私は旧古川町の出身。住んでいたのは10年程だが、最近地図を買ってみて驚いた。地名が「十日町」から「古川十日町」、「南町」は「古川南町」と変わり皆「古川」が上についている。古川は明治22年に「古川町」、昭和25年に「古川市」、平成18年に「大崎市」と発展してきたが、改めて古川の歴史を調べ古川は素晴らしいと思った。

まず古川には紀元前8世紀以前の太古から人が住んでいたようだ。旧石器時代の「古川馬場壇A遺跡」、「岩出山座散乱木遺跡」、縄文時代の「小牛田素山貝塚」、「田尻中沢目貝塚」、古墳時代の「小牛田京銭塚古墳」、「古川青塚古墳」、「三本木山畑横穴群」、「古川日光山古墳群」、「田尻木戸窯跡群」、「古川大吉山窯群跡」があるので、この辺りは太古の昔から人の住み易い所だったのだろう。

また大化改新後の官衙の「古川名生館遺跡」や「宮崎遺跡」があり、蝦夷防衛の最前線だった色麻柵（色麻）、玉造柵（中新田）、新田柵（田尻）の遺跡などがあるので、昔からこの地方の要地で古くから発展していたのだろうが、歴史が動いたのは1354年（室町時代）に斯波家兼が奥州管領として名生官を居城にしてから。

それから240年間古川は、1590年8月豊臣秀吉に領地を没収されるまで斯波氏改名の「大崎氏」に統治されていた。古川の開祖は7代教兼の6男某と伝えられているが、同門の古川弾正忠隆が古川城を構えていたほどだから古川は要地だったのだろう（大崎氏は、玉造、志田、加美、遠田、栗原の大崎5郡を領していたが推定禄高は35万石）。

大崎氏の後は、豊臣秀吉から葛西・大崎12郡30万石を与えられた木村吉清・清久（明智の旧臣で秀吉側近、5千石の侍大将）の領地となって、名生城に入った木村清久が支配していたというが、木村親子の悪政で葛西・大崎の旧臣らの一揆がおき、古川城は一揆の拠点となって大崎旧臣の古川弾正ら3千人が伊達軍と戦ったというが、1591年6月末に落城し、一揆は鎮圧されて木村親子も追放され、古川は伊達政宗の領地となった。

伊達政宗はこの大崎氏の旧領古川を国家老の鈴木和泉守元信に与えた（知行は1500石。分限帳では2464石）。

元信は理財に長け仙台藩の経営で真価を発揮した練達の人なので、古川は元信の知行地になったのはラッキー。元信は1604年に古川町の検断役に佐々木大学を起用して新しい町割り（御町割方検断）を行い、「瑞川寺」を再興し「三日町」、「七日町」、「十日町」の市場を開いて産業振興を図り、繁栄の基礎を作ったという。瑞川寺の山門は廃城になった古川城の搦手門、1620年に死亡した元信はここに葬られている。

元信死後古川は伊達藩の直轄領になり現在の市役所のところが代官所。古川は「千石米」の生産地・大崎耕土の中心地で、仙台藩は年貢を納めた後の余剰米を買い上げて江戸に出荷したが、その流通基地が江合川の長瀬・古川と鳴瀬川の四日市場・中新田。平田舟で石巻まで運び35反の帆を巻き上げた千石船で江戸まで運んだという。

今や昭和20年に8時間かかった東京―古川間は新幹線の「はやぶさ」で1時間47分。それまでは小牛田乗り換えの東北本線だったので、昔私達は鉄道開通の時に炭塵を嫌って迂回させた明治の人の愚かさを怨んだものでだが、今は東京と直通で古川駅の周りの発展は凄い。だが昔の景観は全くなくなり、昔の米どころの活気もないのは淋しい限りだが、新幹線は町割り以来の発展のチャンス。古川人として地方創生策で大胆な産業誘致や産業創生をし、力強く底固い発展を期待したいものである。

同期会　古希記念大会

昭38年卒　佐々木恭次

去る11月16日（日）古高15回生39人が菅原四郎君の親戚の「ホテル松島大観荘」に集り、斗瑩稲荷神社（通称：トッケサマ）（元神主橋本正敏君）で古希厄払いのお札を貰い、古希を祝いました。卒業後50年振りに初めて会う同期生もおり白髪や薄くなり、人生の年輪を重ねて街中で会う〝いいオジさん〟顔になっていました。今野良郎会長の下、荒谷正咲事務局の辞退を押し留め今後の継続につき満場一致で承認となりました。

県行政に尽くした平　秀毅君の叙勲（瑞宝小）の報告や、宮本信夫画伯が新装の古川市民病院前広場に来年3月末迄に作品を完成させることになった話がありました。これは病でなくなった篤志家が宮本画伯の作品を病院に展示してほしいという遺志によるものです。横綱白鵬（大崎市の宝大使）の額縁とは違った意味合いで、病院を訪ねた患者さんらが必ずや癒されることかと思います。篤志家が古高出身でないのはチョッと残念と思いながら、自分の出来うる範囲